



2021年度 母性看護学領域

中村幸代（教授） 飯田真理子（准教授） 竹内翔子（講師） 篠原枝里子（助教）

2021年度卒業研究発表会の開催



卒業研究を終えて

助産所でのインタビューを通して、妊婦やその家族との関わり方や助産師ならではのケアの視点を学ぶことができました。研究で得た学びを大学院での学習に活かしていきたいです。（2021年度母性ゼミ 木村百合さん）

2021年12月7日に卒業研究発表会がZoom開催され、母性ゼミ生12名が下記のテーマで発表を行いました。

- ・バースプラン立案における妊婦の情報探索行動と他者との関わり
- ・経産婦が産後に感じる不安の内容と特徴
- ・助産所で勤務する助産師による会陰裂傷予防のための臨床判断
- ・後期早産児を出産した母親に対して、助産所にて助産師が行っている地域における継続的な授乳支援
- ・助産所で立ち会い出産を行う産婦とその家族に対する助産師のケア
- ・助産所で勤務する助産師による特定妊婦に対する関わり
- ・冷え症のセルフケアを妊婦が継続するための助産師の関わり
- ・助産師が助産所での就職を選択する要因
- ・フィリピン共和国で妊娠を経験した日本人女性の体験—異文化での妊娠に必要なケアの考察—
- ・助産所における産後入院中の母親に対する母乳育児支援に関する助産師の関わり
- ・新型コロナウイルス感染症流行下における母親の子との生活に関する悩みとニーズの特徴

大学院生の研究活動①

2021年12月14日に博士前期課程の論文審査が行われ、今年度も母性看護学分野の院生が審査を受けました。

<大学院での研究活動を通して>

研究課題：「夫婦のコペアレンティングに関する助産師の認識と産前教育の実態および関連要因の検討」

進学時は研究の基礎もわからず、研究活動を無事にやり遂げられるのか不安もありましたが、先生方の温かく丁寧なご指導のおかげで、研究や論文執筆へのやりがいを感じながら進めることができました。今後も大学院での学びを糧に、研究と臨床の両方の視点を大切にしながら、助産師として成長していきたいと思っております。

母性看護学分野 齊藤千秋さん

大学院生の研究活動②

本学大学院では、博士前期課程の母性看護学分野と助産学分野、博士後期課程のウィメンズヘルス看護学分野に在籍する大学院生が定期的に院生だけの合同ゼミを開催しています。毎回、研究活動に取り組む中でのそれぞれの疑問や悩みをテーマに、院生間で活発にディスカッションをして学びを深めています！

母性ゼミ卒業生の研究活動

今回「早産となる産婦への分娩第一期における熟練助産師の支援」というテーマのもと、研究を実施しました。私が働いている総合周産期母子医療センターはよりハイリスクを担う病院であり、22週0日という超早産児のお産も担います。早産の分娩経過は予測が難しく、今回の研究を通して先輩方がどのような視点でお産を予測し観察・ケアを実施しているのか、どのように不安と罪悪感を持つ産婦に寄り添うのかを学ぶよい機会となりました。（2016年度卒 松村香穂さん）

第35回神奈川母性衛生学会開催

2022年2月5日に第35回神奈川母性衛生学会がオンライン開催されました。今大会の大会長は中村幸代教授が務め、全国から多くの方にご参加いただきました！本学の大学院生・ゼミ生も発表しました。



★ 本学大学院へ進学をお考えの方は、いつでもお気軽にご相談ください！

【お願い】

登録メールアドレスの変更は、下記までご連絡ください。
竹内：shoko@yokohama-cu.ac.jp